

土地改良事業計画書

県営大井平地区

区画整理

(経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」) 事業

目 次

第1章 目的	-----	1
第2章 地域及び地積	-----	2
第1節 地 域	-----	2
第2節 地 積	-----	2
第3章 現況	-----	3
第1節 気象及び海象	-----	3
1 一般気象	-----	3
2 特殊気象	-----	4
3 海象	-----	4
第2節 土地状況	-----	5
1 地形、土壌及び侵食の程度	-----	5
2 土地分類	-----	6
3 土地利用の状況	-----	6
4 土地所有の状況	-----	7
第3節 水利状況	-----	8
1 用水状況	-----	8
2 排水状況	-----	11
3 河川状況	-----	13
第4節 道路概況	-----	14
1 道路概況	-----	14
2 主要道路一覧表	-----	16
第5節 地域農業の概況	-----	17
1 産業別就業人口	-----	17
2 経営耕地広狭別経営体数及び耕地の分散状況並びに農業経営体数	-----	17
3 動力農機具及び主要家畜頭数	-----	17
4 主要作物作付状況	-----	18
5 農業の動向	-----	18
第6節 地域環境の概況	-----	18

第4章	一般計画	19
第1節	事業計画の要旨	19
1	要旨	19
2	事業別面積	19
第2節	営農計画及び土地利用計画	20
1	営農計画の概要	20
2	土地利用区分	20
3	作付方式	21
4	生産計画	22
5	労働改善計画	22
6	級地別土地利用区分	23
7	土地配分計画	23
第3節	用水計画	23
1	計画基準年	23
2	計画かんがい方式	23
3	計画用水系統	23
4	計画用水量	25
5	水源計画	26
第4節	排水計画	27
1	計画基準雨量	27
2	計画排水方式	27
3	計画排水系統	27
4	計画排水量	29
5	排水対策	29
6	湛水検討	30
第5節	道路計画	30
1	道路及び索道	30
2	路線配置図	30
第6節	農用地造成計画	32
第7節	洪水調節計画	32
第8節	干拓計画	32
第9節	農用地整備計画	32
1	区画整理	32
2	暗渠排水	34
3	客土	34
4	農地保全	34
第10節	老朽ため池改修計画	34

第5章	主要工事計画	-----	35
第1節	用水施設	-----	35
1	貯水池	-----	35
2	頭首工	-----	35
3	揚水機	-----	35
4	用水路	-----	35
5	その他かんがい施設	-----	35
第2節	排水施設	-----	35
1	排水水門	-----	35
2	排水機	-----	36
3	排水路	-----	36
4	その他排水施設	-----	36
第3節	道路及び索道	-----	36
1	道路	-----	36
2	索道	-----	36
第4節	農用地造成	-----	37
第5節	洪水調節施設	-----	37
第6節	干拓施設	-----	37
第7節	農用地整備施設	-----	37
1	区画整理	-----	37
2	暗渠排水	-----	38
3	客土	-----	38
4	除礫	-----	38
5	農地保全	-----	38
第8節	老朽ため池改修施設	-----	38
第6章	附帯工事計画	-----	39
第7章	工事の着手及び完了の予定時期	-----	39
第8章	環境との調和への配慮	-----	39
第9章	換地計画の概要	-----	40
第1節	換地計画を作成する上での基本的な考え方	-----	40
第2節	換地区の設定	-----	40
1	換地区の名称、所在、面積	-----	40
2	換地区を設定する理由	-----	40

第3節 換地計画樹立の基本方針	-----	40
1 従前の土地の地積の基準	-----	40
2 用途別予定地積	-----	41
3 農用地集団化の方針	-----	42
4 非農用地の換地方法	-----	42
第4節 土地の評価及び清算の方法	-----	42
1 評価の方法	-----	42
2 清算の方法	-----	42
第5節 換地計画樹立の年度計画	-----	42
第6節 換地処分の特則	-----	43
第10章 事業費の総額及び内訳	-----	44
第11章 効用	-----	45
第12章 関連する事業	-----	45
第13章 現況・計画図面	-----	45
計画一般図	-----	46

第1章 目的

本地区は津南町の西側に位置し、一級河川信濃川の河岸段丘面に広がる約46haの耕地で、稲作の盛んな地域である。地区の中央には町道大井平城原線が通り、東側には一級河川大門川、西側には一級河川馬界川が流れている。

河岸段丘上に形成された耕地のため、水が貴重な地域であり、昭和40年代の基盤整備によりため池整備による用水の確保と合わせて区画整理による10a区画への拡大を行っている。平成7年度～平成10年度の県営土地改良総合整備事業では、パイプライン化を図るなど、作物の安定生産、生産の省力化を進めており、営農意欲の高い地域である。

しかし、小規模経営による兼業農家が多く、高齢化が進む中で、耕作条件の厳しさや水利施設の維持管理の増加から集積化が進んでおらず、今後は、農地の遊休化や耕作放棄地の発生が懸念される。

このような状況を踏まえ、維持管理の節減、大型機械の導入による生産性の向上及び経営耕地の集積・拡大を図るため、区画の拡大と道水路等の農業基盤整備が不可欠である。

本事業により、区画整理を実施し、大型機械化体系及びスマート農業等の新技術導入による農作業の省力化と農地集積の推進によるコスト縮減を図り、水稻生産の効率化と生産コストの低減を実現し、生産性向上によって生じる余剰労働力を活用して地区外を含めた園芸栽培の拡大を促進し、収益性の高い持続可能な地域農業の確立を図る。

第2章 地域及び地積

第1節 地域

(第1表)

事業名	地域
区画整理	新潟県中魚沼郡津南町大字上郷大井平、谷内 地内

第2節 地積

(令和7年8月現在) (第2表)

事業名	現況地目	田	畑	原野	山林	その他	計	備考
	市町村名	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	(ha)	
区画整理	津南町	43.5	2.2	0.3	-	9.3	55.3	
合計		43.5	2.2	0.3	-	9.3	55.3	

第3章 現況

第1節 気象及び海象

1. 一般気象

(第3表-1)

観測所名	津南観測所	かんがい期	非かんがい期	計又は平均	備 考
観測期間	1991年～2020年	5月～8月	9月～4月		
平均気温 (°C)		20.1	6.3	10.9	気象庁HPデータ 1991年～2020年
降水量	平均 (mm)	600.8	1,338.0	1,938.8	〃
	基準年 (mm)	817.5	1,351.5	2,169.0	気象庁HPデータ 2019年
降水日数	平均 (日)	52.8	140	192.8	気象庁HPデータ 1991年～2020年
	基準年 (日)	49	125	174	気象庁HPデータ 2019年
根雪期間		12月16日～4月11日		117日間	森林総合研究所HPデータ (十日町試験地) 1993年～2025年
無霜期間		4月15日～11月18日		218日間	気象庁HPデータ (高田) 1991年～2007年
最多風向		南	最大風速 (風向)	20.1 m/s (南)	最多風向発生時期 2月～5月、8月～11月 最大風速発生年月日 2012年4月3日 気象庁HPデータ 1991年～2020年

2. 特殊気象

(第3表-2)

観測所名	第1位			第2位			第3位			第4位			第5位			備考
	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	数量	年月日	発生確率	
津南観測所																
観測期間	1957年～2025年															
最大日雨量 (mm)	192.5	2019.10.12	1/40	174.5	2013.9.16	1/25	156.5	2017.10.23	1/15	147.0	1982.9.12	1/10	139.0	1998.9.16	1/10	気象庁HPデータ(1976～2025) 新潟県R3水文統計 【第14版】(1957～2019)
最大時間雨量 (mm)	62.0	2005.9.10	—	58.0	2005.7.30	—	55.0	1988.8.25	—	49.5	2016.8.2	—	49.0	2022.8.4	—	気象庁HPデータ(1976～2025)
最大4時間雨量 (mm)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
最大連続雨量 (mm)	479.0	1974	1/50	470.0	1970	1/40	399.0	1964	1/20	370.0	1971	1/10	360.0	2012	1/10	新潟県R3水文統計 【第14版】 (1957～2019)
最大連続干天日数 (日)	36	1987	1/50	32	1973	1/30	31	1984	1/30	30	2018	1/25	27	1992	1/10	新潟県R3水文統計 【第14版】 (1957～2019)

3. 海象

該当なし

第2節 土地状況

1. 地形、土壌及び侵食の程度

本地区は、津南町西部に位置し、東西方向に標高444mから436m、南北方向に452mから425mの範囲で平均1/45で傾斜しており、どの方向も高低差が大きくなっている。

土壌条件は、地区全域で黒色土壌が確認され、地元の聞き取りから乾田と判断されるが、一部のほ場では湧水が発生している。

(1) 地形

(第4表-1-1)

事業名	地目	田						畑・その他						受益地標高(m)		備考
		1/1,000 未満	1/1,000 ～ 1/100	1/100 ～ 1/20	1/20 ～ 1/11.5	1/11.5 以上	計	3° 未満	3° ～ 8°	8° ～ 15°	15° ～ 20°	20° 以上	計	最高	最低	
区画整理	面積 (ha)	—	—	43.5	—	—	43.5	2.2	—	—	—	—	2.2	452	425	
	比率 (%)	—	—	100	—	—	100	100	—	—	—	—	100			
合計	面積 (ha)	—	—	43.5	—	—	43.5	2.2	—	—	—	—	2.2			
	比率 (%)	—	—	100	—	—	100	100	—	—	—	—	100			

(2) 土壌

(第4表-1-2)

項目 土壌統(区)名	土壌統(区)区分一覧表									面積 (ha)		備考	
	土 壤 断 面							堆積様式	母材	事業名			
	色	腐植	礫層	沈殿物 酸化	土性					泥炭層 黒泥層 及び グライ層	区画整理		計
					表土	下層土							
一層	二層	三層											
H70 黒色土壌粘土 火山腐植型	黒	1層富む 2層富む 3層含む	なし	—	Sic~Lic	Sic~Lic	Lic	泥炭層なし グライ層なし	洪積	—	44.4	44.4	
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	44.4	44.4	

(3) 侵食の程度

該当なし

2. 土地分類

該当なし

3. 土地利用の状況

(令和7年8月現在) (第4表-3)

事業名	土地利用別 市町村名	耕 地						山林		採草 放牧地 (ha)	原野 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	茶園 (ha)	その他 の 樹園地 (ha)	用材林 (ha)	薪炭林 (ha)					
区画整理	津南町	43.5	2.2	—	—	—	—	—	—	—	0.3	9.3	55.3	
合計		43.5	2.2	—	—	—	—	—	—	—	0.3	9.3	55.3	

4. 土地所有の状況

(令和7年8月現在) (第4表-4)

事業名	所有別	個人有	土地改良区有	市町村有	国・県有	計	備 考
	区分						
区画整理	面積 (ha)	46.3	6.2	2.8	-	55.3	
	受益者数 (人)	36	-	-	-	36	
	筆数 (筆)	415	190	40	-	645	
	権利関係	所有権・耕作権	-	-	-		
	備考 (関係戸数)	36	-	-	-	36	
合計	面積 (ha)	46.3	6.2	2.8	-	55.3	
	受益者数 (人)	36	-	-	-	36	
	筆数 (筆)	415	190	40	-	645	
	権利関係	所有権・耕作権	-	-	-		
	備考 (関係戸数)	36	-	-	-	36	

第3節 水利状況

1. 用水状況

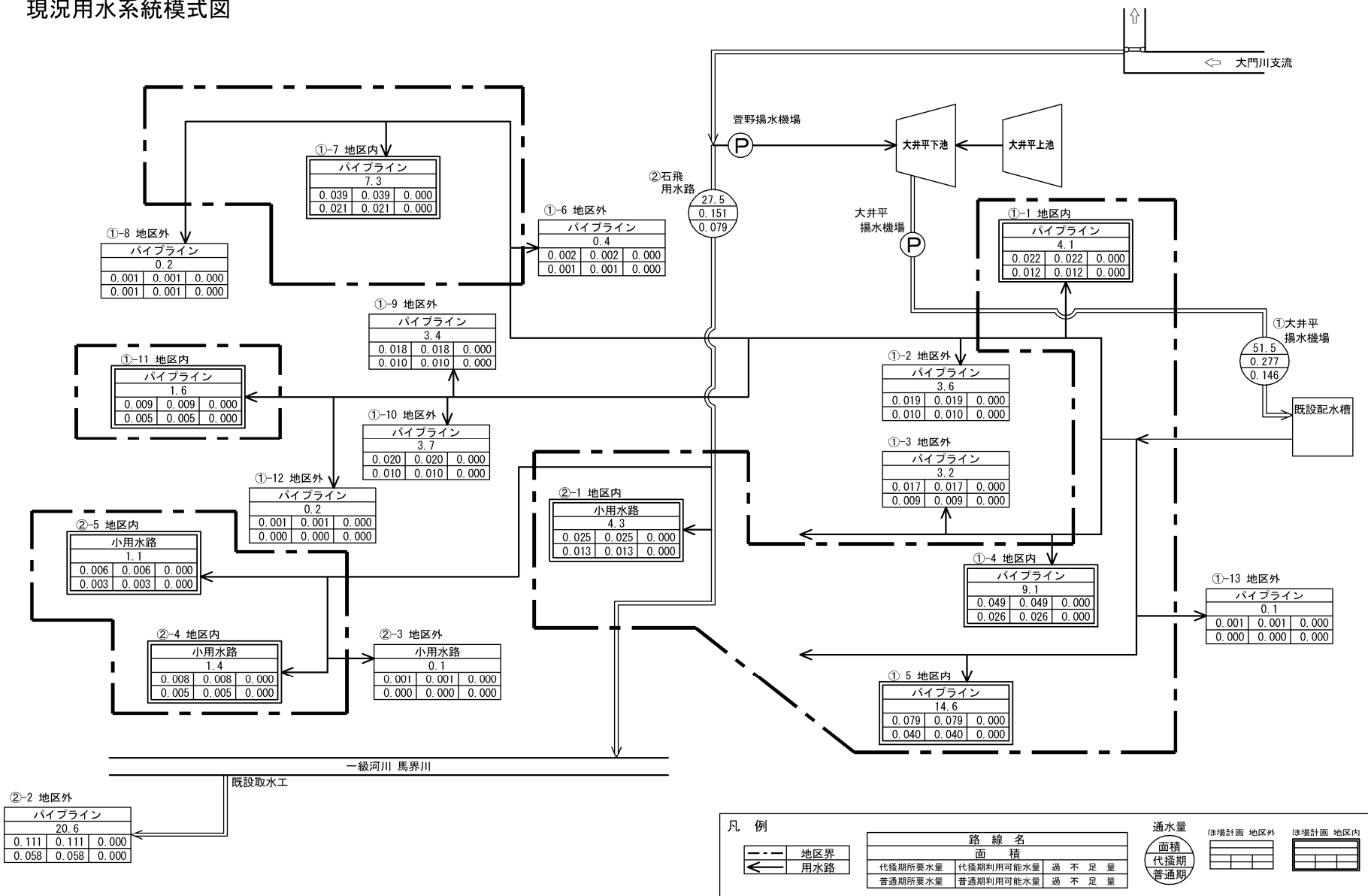
地区の用水源は、地区の東側にある大井平ため池と東側から流れる石飛用水路が主となっている。

大井平ため池からは、大井平揚水機場により揚水され、地区高位部の配水槽へ送水し、パイプラインによりかんがいされている。石飛用水路からは、開水路によりかんがいされており、石飛用水路の一部は、用排兼用水路となっている。パイプラインは、平成7年～平成10年に整備されているが、開水路は昭和40年代の整備のままであるため、老朽化が著しく維持管理に苦慮している。

(1) 用水系統

現況用水系統模式図のとおり。

現況用水系統模式図



凡例

---	地区界
←	用水路

路線名			
面積			
代播期所要水量	代播期利用可能水量	過不足量	
普通期所要水量	普通期利用可能水量	過不足量	

通水量

面積	
代播期	普通期

ほ場計画	
地区外	地区内

(2) 用水施設
 (ア) 取水方法一覧表

(第5表-1)

事業名	項目 施設名	かんがい面積						計		許可水利権		慣行水利権等		延べ 取水量	備考
		500ha以上		500~100ha		100ha未満									
		箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	m ³ /s	箇所	m ³ /s	m ³ /s	
区 画 整 理	揚水機	-	-	-	-	1	51.5	1	51.5	-	-	-	-	0.277	大井平ため池
	自然取入口	-	-	-	-	1	27.5	1	27.5	-	-	-	-	0.151	石飛用水路
	合 計	-	-	-	-	2	79.0	2	79.0	-	-	-	-	0.428	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-2)

事業名	項目 施設名	施設名又は箇所数	受益面積 (ha)	構 造	規 模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備 考
整 理 画	用水路	ほ場内水路	43.5	パイプライン・フリューム	8.5km	H10, S45	水管理の合理化 水管理労力の省力化	
	合 計	-	43.5	-	-	-	-	

(3) 用水に関する被害状況

該当なし

(4) ため池決壊の場合の想定被害状況

該当なし

2. 排水状況

排水は、昭和40年代に整備された排水路を更新することなく利用しており、各耕区の排水を集水して地区周辺の沢へ自然排水している。排水路は整備から50年以上経過しており、老朽化が著しく維持管理に苦慮している。

(1) 排水系統

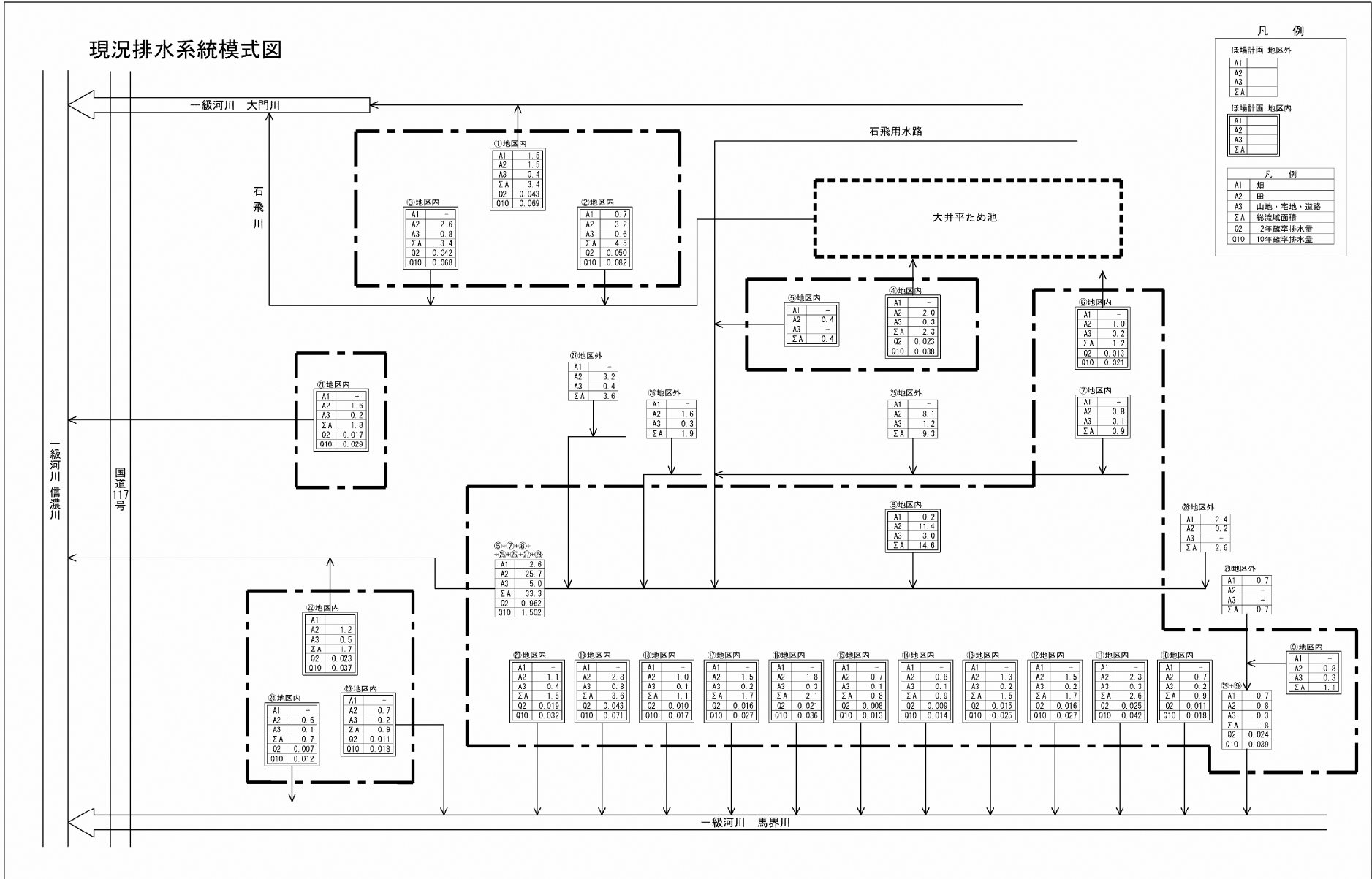
現況排水系統模式図のとおり。

現況排水系統模式図

凡 例

流域計画 地区外	
A1	
A2	
A3	
ΣA	
流域計画 地区内	
A1	
A2	
A3	
ΣA	

凡 例	
A1	畑
A2	田
A3	山地・宅地・道路
ΣA	総流域面積
Q2	2年確率排水量
Q10	10年確率排水量



(2) 排水施設
 (ア) 排水方法一覧表

(第5表-4)

事業名	項目 施設名		排水面積						計		排水慣行 (m ³ /s)	現況排水能力 (m ³ /s)	備考
			500ha以上		500～100ha		100ha未満						
			箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha	箇所	ha			
整区 理画	自然	排水路	—	—	—	—	1	73.4	1	73.4	—	2.237	全排水量
	機械	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
合計			—	—	—	—	1	73.4	1	73.4	—	2.237	

(イ) 改修を要する施設一覧表

(第5表-5)

事業名	項目 施設名		施設名 又は 箇所数	受益面積 (ha)	構造	規模	新設年度 又は 更新年度	改修を必要 とする理由	備考
整区 理画	自然	排水路	ほ場内水路	43.5	フリューム・柵渠	12.8km	S45	排水状況の改善	
	機械	—	—	—	—	—	—	—	
合計			—	43.5	—	—	—	—	

(3) 排水に関する被害状況

該当なし

3. 河川状況

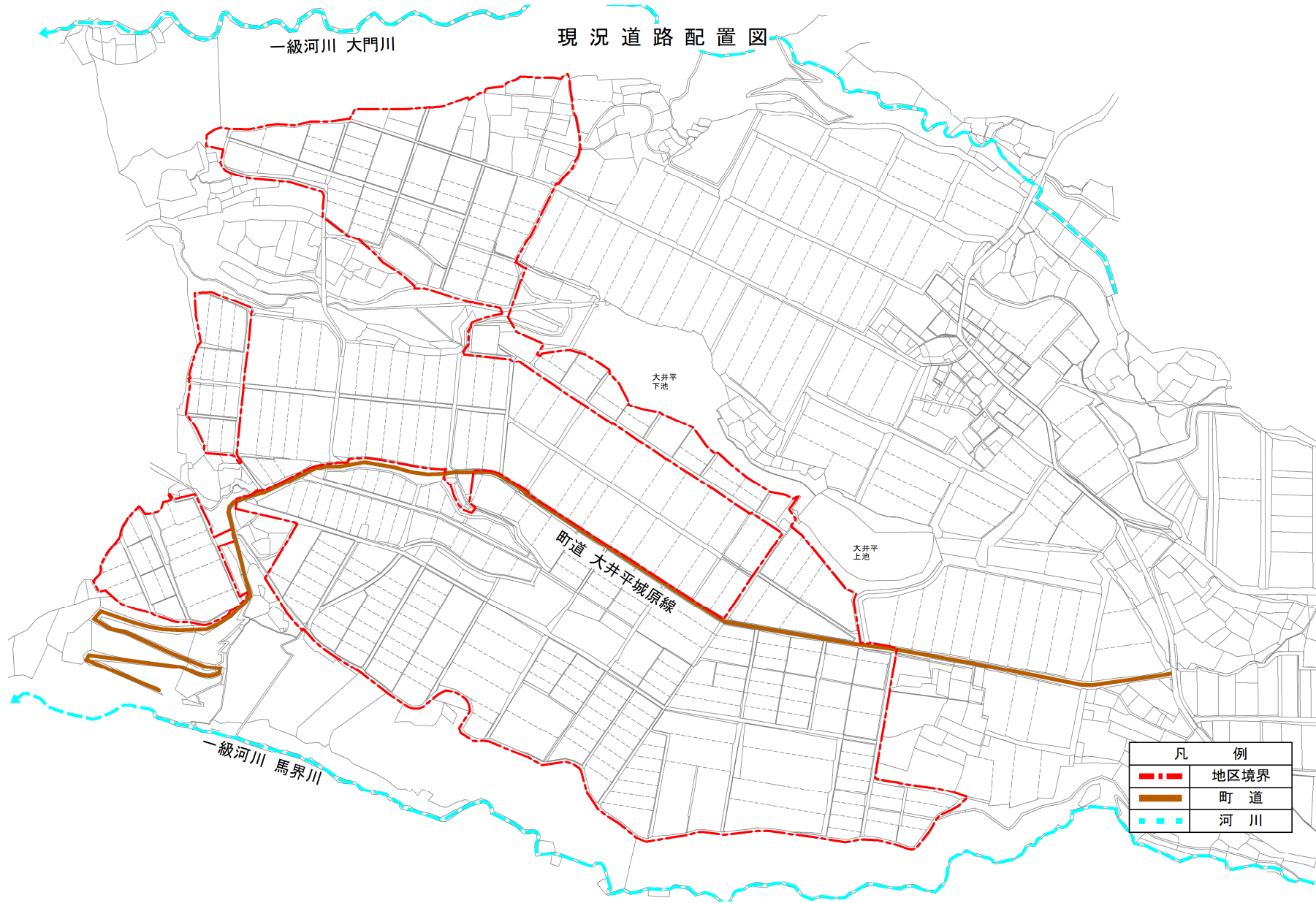
該当なし

第4節 道路概況

1. 道路概況

地区内の道路は、地区中央に町道大井平城原線があるものの、農道は幅員3 m未満の道路の割合が70%以上で、大半が幅員2.0m～2.5mの狭小な路線であることから、車両のすれ違いが困難な状況である。

現況道路配置図のとおり。



2. 主要道路一覧表

(第6表)

番号	線路名	管理区分別	延長 (k m)	幅員 (m)		構造	改修の要否	備考
				全幅	有効			
-	農道	津南郷土地改良区	0.1	3.5	3.0	砂利	否	
-	農道	津南郷土地改良区	6.8	2.0~3.5	1.5~3.0	砂利	要	
-	農道	津南郷土地改良区	3.6	2.5~3.5	2.0~3.0	Co	要	
-	町道	津南町	1.0	5.5	4.5	As	否	

第5節 地域農業の概況

1. 産業別就業人口

(R2年 国勢調査) (第7表-1)

項目 市町村名	総数 (人)	農業 (人)	林業 (人)	漁業 (人)	鉱、採石、砂利採取業 (人)	建設業 (人)	製造業 (人)	電気ガス水道熱供給水道業 (人)	運輸通信業 (人)	卸売小売業 (人)	金融保険業 (人)	不動産物品賃貸業 (人)	サービス業 (人)	公務 (人)	その他 (人)	備考
津南町	4,929	1,167	44	6	24	539	570	30	115	566	44	19	1,648	157	-	
比率(%)	100	23.7	0.9	0.1	0.5	10.9	11.6	0.6	2.3	11.5	0.9	0.4	33.4	3.2	-	

2. 経営耕地広狭別経営体数及び耕地の分散状況並びに農業経営体数

(R2年 農林業センサス) (第7表-2)

区分 市町村名	(経営体数) る適用外規 定を受けの	経営耕地広狭別経営体数 (経営体)										1経営体当たり平均農用地面積 (ha)						耕地の分散状況		農業経営体数 (経営体)			備考
		0.3 ～ 0.5	0.5 ～ 1.0	1.0 ～ 1.5	1.5 ～ 2.0	2.0 ～ 3.0	3.0 ～ 5.0	5.0 ～ 10.0	10.0 ～ 20.0	20.0 ha 以上	田	畑	樹園地	小計	草地	計	当一 地 数 団 体	団 地 当 り 面 積 (ha)	個人 営 体	団 体 法 営 体 (人)	団 体 法 営 体 (人)		
津南町	866	20	130	232	121	76	91	88	75	26	7	1.70	0.78	0.00	2.48	0.02	2.50	-	-	840	20	6	
比率(%)	100	2.3	15.0	26.8	14.0	8.8	10.5	10.2	8.6	3.0	0.8	68.0	31.2	0.0	99.2	0.8	100	-	-	97.0	2.3	0.7	

3. 動力農機具及び主要家畜頭数

(R2年 農林業センサス) (第7表-3)

項目 市町村名	動力農機具								主要家畜								備考
	耕うん機		トラクター		動力田植機		コンバイン		乳用牛		肉用牛		豚		鶏		
	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (台)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (頭)	経営体数 (経営体)	数量 (100羽)	経営体数 (経営体)	
津南町	-	-	-	-	-	-	-	-	158	4	95	8	9,438	8	x	3	
100経営体あたり数量 (台・頭・100羽)	-	-	-	-	-	-	-	-	18	11	11	8	1,090	8	x	3	
利用経営体数割合 (%)	-	-	-	-	-	-	-	-	0.5	0.9	0.9	0.9	0.9	0.9	0.3	0.3	

4. 主要作物作付状況

(新潟農林水産統計年報) (第7表-4)

市町村名		津南町		計	平均	作付率 (%)	備考	
総耕地面積(ha)		3,010		3,010	3,010			
総本地面積(ha)		2,750		2,750	2,750			
作物名	区分		作付面積 (ha)	単位面積 当たり収量 (kg/10a)	作付面積 (ha)	単位面積当 たり収量 (kg/10a)	備考	
	田	表作	水稻	1,430	521	1,430		521
	裏作	-	-	-	-	-		
	小計		1,430	-	1,430	-	94.6	
畑	春夏作	大豆	35	206	35	206	2.3	
	秋冬作	そば	47	77	47	77	3.1	
	小計		82	-	82	-	5.4	
樹園地	-		-	-	-	-	-	
	小計		-	-	-	-	-	
計			1,512	-	1,512	-	100	
市町村別延べ作付率(%)			100	-	100	-	-	

5. 農業の動向

(H22～R2年 農林業センサス) (第7表-5)

項目	経営体		土地		主要作物			大家畜			動力農機具			地域指定等	備考		
	B	A	B	A	作物名	B	A	家畜名	B	A	農機具名	B	A				
変化の状況 (C年を100と する指数)	農業経営体数	86	70	耕地	92	95	水稻	102	x	乳用牛	58	74	耕うん機	-	-	農業振興地域 指定S49.2.15 認可R4.3 過疎地域 指定H12.4.1 特別豪雪地帯 指定S46.10.2	A:令和2年 B:平成27年 C:平成22年
	個人経営体数	85	69	田	94	93	イモ類	75	100	肉用牛	x	81	トラクター	89	-		
	団体経営体数(法人数)	88	80	畑	87	101	豆類	128	141	豚	106	82	コンバイン	84	-		
	団体経営体数(非法人数)	200	120	樹園地	100	-	野菜類	x	x	鶏	-	x	動力田植機	85	-		
	農業従事者数	79	60														
変化の理由	農業情勢の変化		農業情勢の変化		食生活の変化 農業政策の変化			食生活の変化			農業経営形態の変化						

第6節 地域環境の概況

津南町は、新潟県の南端に位置しており、長野県に接している。市域は東西約13.4km、南北約24.4kmに及び、総面積は170.28km²を有している。

本町は、町の東西を貫流する信濃川と、これに合流する志久見川・中津川・清津川の河川に沿って、雄大な河岸段丘が形成され、そこに生息・生育する生き物も身近な種から貴重な種まで多種多様である。農村環境においては、中山間地域に広がる良好な棚田景観をはじめ、我が国の原風景を思わせる良好な環境が広がっている。

第4章 一般計画

第1節 事業計画の要旨

1. 要旨

本地区は小規模兼業農家が多く、高齢化が進行している。農地区画の60%以上が20a以下の狭小区画であり、10aと30a区画が混在するなど不均衡なほ区が点在し、作業効率の低下を招いている。また、地区中央の町道を基幹とする農道網は、全体の70%以上が幅員3m未満と狭小で、大型農業機械の導入に対応できない状況である。

本事業により、区画整理を実施し、大型機械化体系及びスマート農業等の新技術導入による農作業の省力化と農地集積の推進によるコスト縮減を図り、水稻生産の効率化と生産コストの低減を実現し、生産性向上によって生じる余剰労働力を活用して地区外を含めた園芸栽培の拡大を促進し、収益性の高い持続可能な地域農業の確立を図る。

2. 事業別面積

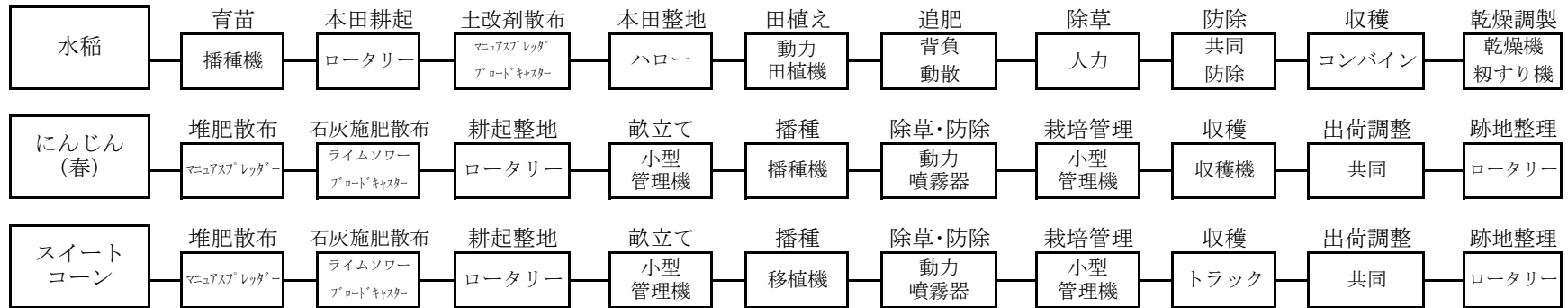
(第8表)

事業目的	事業名 土地利用区分	区画整理					計 (ha)	備考	
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	道水路 (ha)			その他 (ha)
区画整理		42.3	2.1	-	-	10.8	0.1	55.3	
計		42.3	2.1	-	-	10.8	0.1	55.3	

第2節 営農計画及び土地利用計画

1. 営農計画の概要

- a) 経営方式 水稻（単作）＋園芸作物（にんじん(春)・スイートコーン）
- b) 経営組織 農地集団化、大型機械導入による生産性向上を図ると共に、土地利用権の集積に努め、農業経営の安定を図る。
- c) 作業体系



2. 土地利用区分

(第9表-1)

事業名	土地利用区分 区分	耕地						原野 (ha)	山林 (ha)	その他 (ha)	計 (ha)	備考
		水田 (ha)	普通畑 (ha)	牧草畑 (ha)	果樹園 (ha)	その他の 樹園地 (ha)	小計 (ha)					
区画整理	現況	43.5	2.2	-	-	-	45.7	0.3	-	9.3	55.3	
	計画	42.3	2.1	-	-	-	44.4	-	-	10.9	55.3	
計	現況	43.5	2.2	-	-	-	45.7	0.3	-	9.3	55.3	
	計画	42.3	2.1	-	-	-	44.4	-	-	10.9	55.3	

4. 生産計画

(第9表-3)

事業名	項目		作付面積 (ha)			作付率 (%)		単位面積当たり収量 (kg/10a)			生産量 (t)			同左生産量増額の 内訳 (t)		備考		
	土地利用区分	作物名	現況	計画	増減	現況	計画	現況	計画	増減	現況	計画	増減	面積増減	単位面積当たり 収量増加			
区画整理	水田	表作	水稻	40.5	39.9	△ 0.6	93.7	95.0	546	546	-	221.1	217.9	△ 3.2	△ 3.2	-		
		表作	自己保全管理	0.5	-	△ 0.5	1.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	普通畑	春夏作	スイートコーン	0.6	0.6	-	1.4	1.4	1,052	1,052	-	6.3	6.3	-	-	-	-	
		春夏作	自家消費野菜	1.6	-	△ 1.6	3.7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		春夏作	にんじん(春)	-	1.5	1.5	-	3.6	-	3,907	-	-	58.6	58.6	58.6	-	-	
合計			43.2	42.0	△ 1.2	100.0	100.0											

5. 労働改善計画

(第9表-4)

事業名	項目		作付面積 (ha)	単位面積当たり労働投下量 (hr/10a)			備考	
	土地利用区分	作物名		区分	現況	計画		増減
区画整理	水田	主食用米	39.9	人 力	15	9	△ 6	現況：乾田 法人
				機械力	8	6	△ 2	計画：乾田 法人50a区画
				人 力	34	9	△ 25	現況：乾田 小規模農家
				機械力	16	6	△ 10	計画：乾田 法人50a区画
				人 力	34	9	△ 25	現況：乾田 小規模農家
				機械力	16	6	△ 10	計画：乾田 法人30a区画
				人 力	25	12	△ 13	現況：乾田 個人担い手
				機械力	13	8	△ 5	計画：乾田 個人担い手50a区画
				人 力	25	12	△ 13	現況：乾田 個人担い手
				機械力	13	9	△ 4	計画：乾田 個人担い手30a区画
				人 力	34	12	△ 22	現況：乾田 小規模農家
	機械力	16	9	△ 7	計画：乾田 個人担い手30a区画			
	畑	スイートコーン	0.6	人 力	45	41	△ 4	現況：乾畑 個人担い手
機械力				17	12	△ 5	計画：乾畑 個人担い手	
合計			40.5					

6. 級地別土地利用区分

該当なし

7. 土地配分計画

該当なし

第3節 用水計画

1. 計画基準年

平成2年
県営土地改良総合整備事業に準じる。

2. 計画かんがい方式

a) かんがい期間

5月～8月

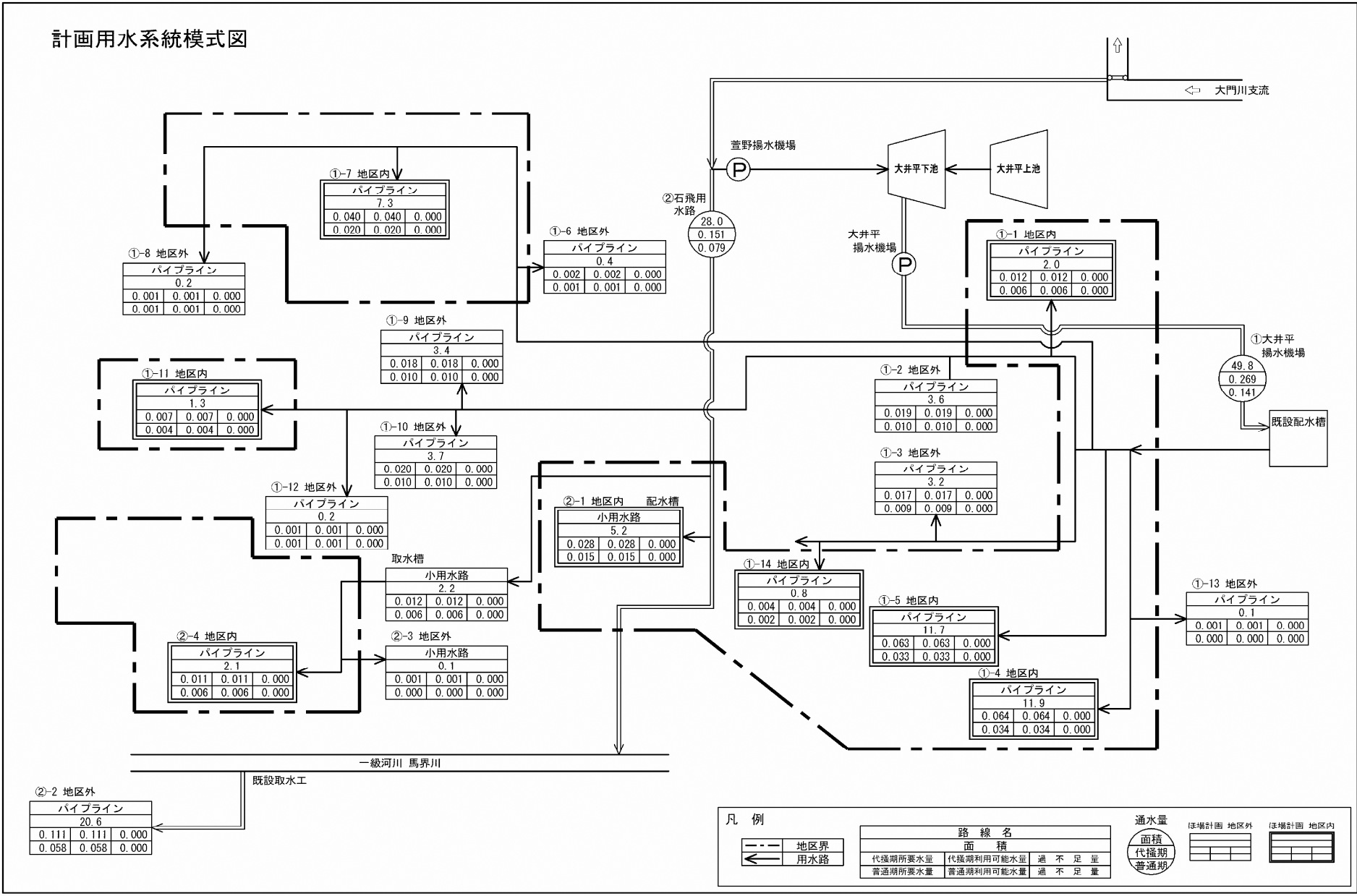
b) かんがい方式

自然圧パイプライン式かんがい

3. 計画用水系統

計画用水系統模式図のとおり。

計画用水系統模式図



4. 計画用水量

(1) かんがい用水

(第10表-1-1)

項目 系統名	種別	面積 (ha)		水田かんがい			水田畑利用			畑地かんがい			その他		消費水量 (m ³ /s)	損失率 (%)	粗用水量		備考
		事業名		普通期	代かき期	面積 (ha)	一日あたり計画 平均かん水深 (mm/日)	平均 間断日数 (日)	面積 (ha)	一日あたり計画 平均かん水深 (mm/日)	平均 間断日数 (日)	面積 (ha)	単 位 用 水 量 (mm/日)	計 画 平 均 面 積 (ha)			平均	最大	
		区 画 整 理	計																
				単 位 用 水 量 (mm)	計 画 平 均 代 か き 量 (mm)														
大井平ため池	農業用水	35.0	35.0	21	150	35.0	—	—	—	—	—	—	—	—	0.089~ 0.171	10	0.099	0.190	
石飛用水路	農業用水	7.3	7.3	21	150	7.3	—	—	—	—	—	—	—	—	0.019~ 0.035	10	0.021	0.039	
計		42.3	42.3	21	150	42.3	—	—	—	—	—	—	—	—	0.019~ 0.171	10	0.120	0.229	

(2) 営農飲雑用水

該当なし

5. 水源計画

(1) 水利用計画

該当なし

(2) 用水対策

(ア) 貯水池

該当なし

(イ) 井堰及び自然取入口

該当なし

(ウ) 揚水機

該当なし

(エ) 用水路

(第10表-6)

項目 名称	かんがい面積(ha)		最大通水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	備考
	事業名					
	区画整理	計				
用水路	42.3	42.3	0.269	6.8	VU φ 75mm~600mm BFB600mm、BF300mm	
計	42.3	42.3		6.8		

(オ) その他の水源施設

該当なし

(3) 水温水質

該当なし

第4節 排水計画

1. 計画基準雨量

日雨量

133.1 mm (1/10確率年)

76.4 mm (1/2確率年)

津南観測所

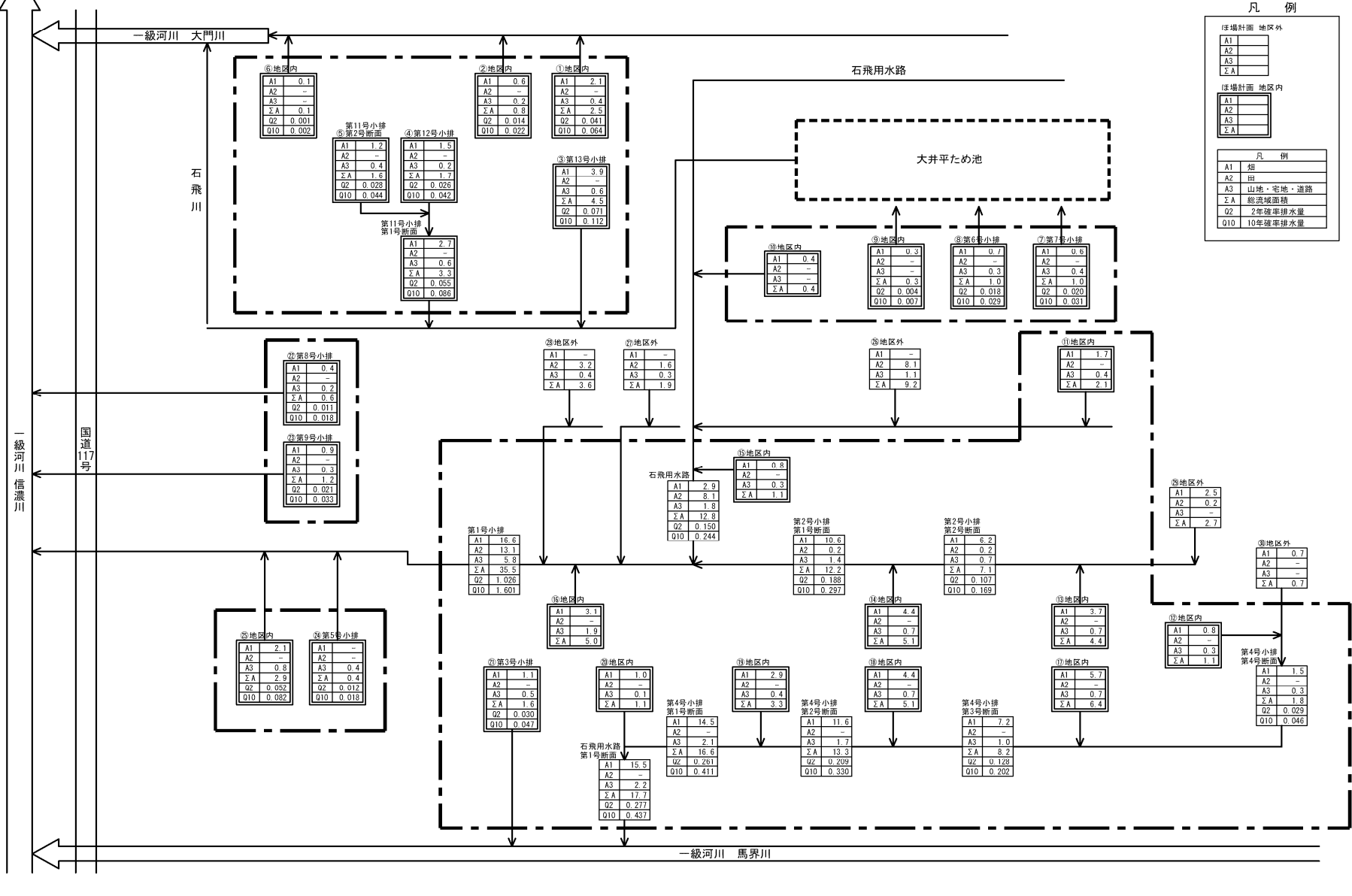
2. 計画排水方式

自然排水

3. 計画排水系統

計画排水系統模式図のとおり。

計画排水系統模式図



凡例

係属計画	地区外
A1	
A2	
A3	
ΣA	
係属計画 地区内	
A1	
A2	
A3	
ΣA	

凡例

A1	畑
A2	田
A3	山地・宅地・道路
ΣA	総流域面積
Q2	2年確率排水量
Q10	10年確率排水量

4. 計画排水量

(第11表-1)

項目 排水系統名	受益面積 (ha)		流域面積 (km ²)		基準雨量 (mm)	降雨による直接単位流出量 (m ³ /s/km ²)		基底流出量 (m ³ /s/km ²)		全排水量 (m ³ /s)			単位排出量 (m ³ /s/km ²)		備考
	事業名		山地	平地		山地	平地	山地	平地	山地	平地		山地	平地	
	区画整理	計									自然排水	機械排水			
一級河川 大門川	11.0	11.0	0.025	0.110	133.1	4.51	2.18	-	-	0.113	0.240	-	4.51	2.18	
一級河川 馬界川	15.9	15.9	0.027	0.166	133.1	4.51	2.18	-	-	0.122	0.362	-	4.51	2.18	
一級河川 信濃川	17.5	17.5	0.075	0.331	133.1	4.51	2.18	-	-	0.343	1.411	-	4.51	2.18	
計	44.4	44.4	0.127	0.607	-	-	-	-	-	0.578	2.013	-	-	-	

5. 排水対策

(1) 排水水門

該当なし

(2) 排水機

該当なし

(3) 排水路

(第11表-4)

項目 名称	流域面積 (km ²)	受益面積 (ha)		計画排水量 (m ³ /s)	延長 (km)	構造	排水本川			備考
		事業名					名称	計画洪水量 (m ³ /s)	計画洪水位 (m)	
		区画整理	計							
小排水路	0.001~0.355	44.4	44.4	0.011~1.601	3.4	HF300mm×300mm, HF900mm×900mm VU φ 200mm~450mm	大門川 馬界川 信濃川	-	-	
計	0.001~0.355	44.4	44.4	0.011~1.601	3.4					

(4) その他

該当なし

6. 湛水検討

該当なし

第5節 道路計画

1. 道路及び索道

(1) 道路

(第12表-1)

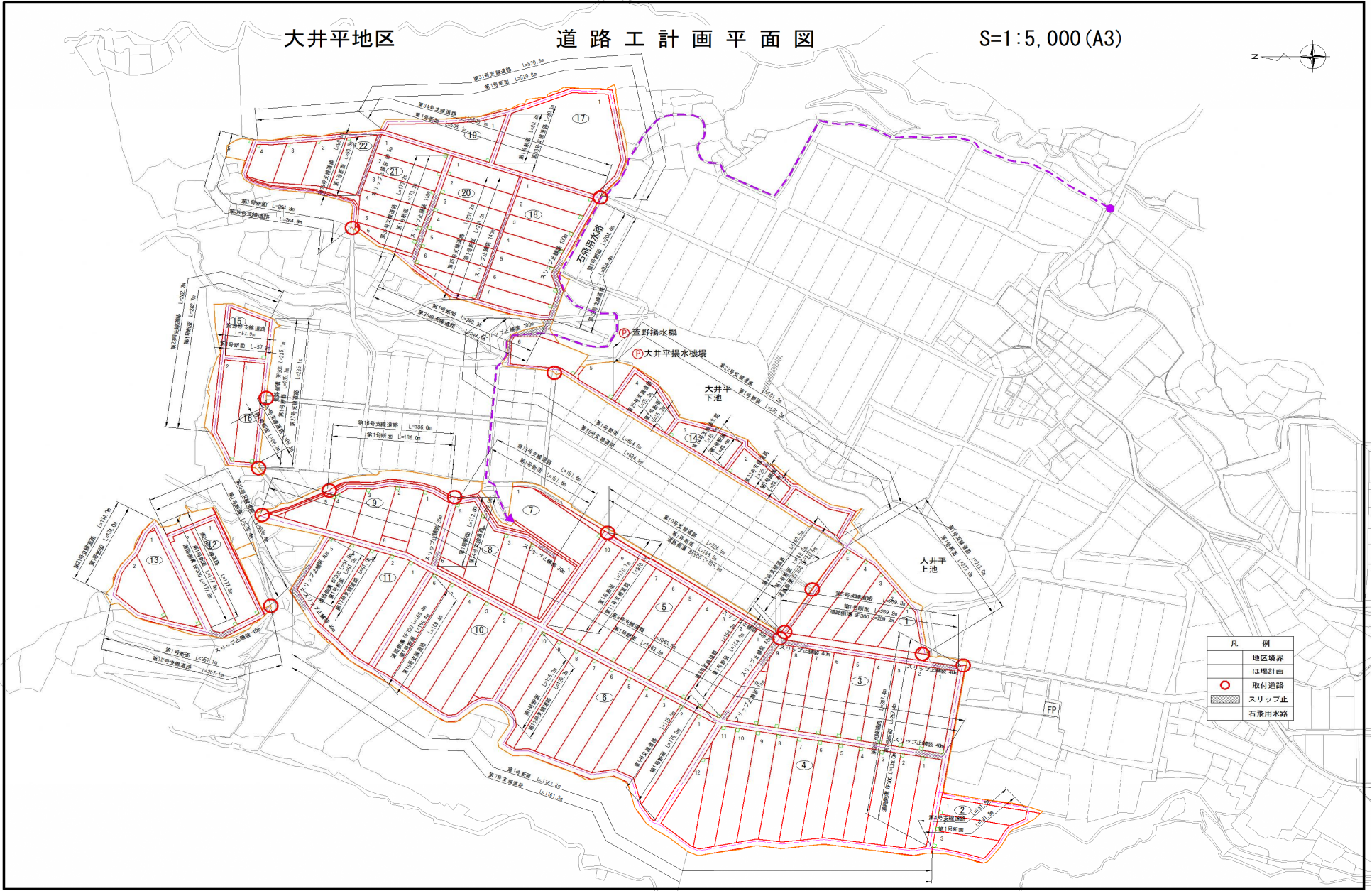
項目 路線名	幅(有効) (m) × 延長 (km)	構造	既設道路との関係	備考
支線道路	5.0(4.0) × 10.0	道路高0.3m～、側法 1:1.5 敷砂利・スリップ止め舗装	町道大井平城原線と接続 管理団体：町道 津南町 農道 津南郷土地改良区	

(2) 索道

該当なし

2. 路線配置図

次頁、道路工計画平面図のとおり。



凡 例	
[Dashed line]	地区境界
[Numbered box]	ほ場計画
[Red circle]	取付道路
[Hatched box]	スリップ止
[Dotted box]	石飛用水路

第6節 農用地造成計画

該当なし

第7節 洪水調節計画

該当なし

第8節 干拓計画

該当なし

第9節 農用地整備計画

1. 区画整理

(1) 区画の形状

(第16表-1)

長辺×短辺 (m)	区画面積 (ha)	全体面積 (ha)	割合 (%)	田面差 (m)	備考
田 150×30	0.5～	6.8	15.3	—	
	0.3～0.5	29.3	66.0	—	
	～0.3	6.2	14.0	—	
畑 不整形	—	2.1	4.7	—	
計		44.4			

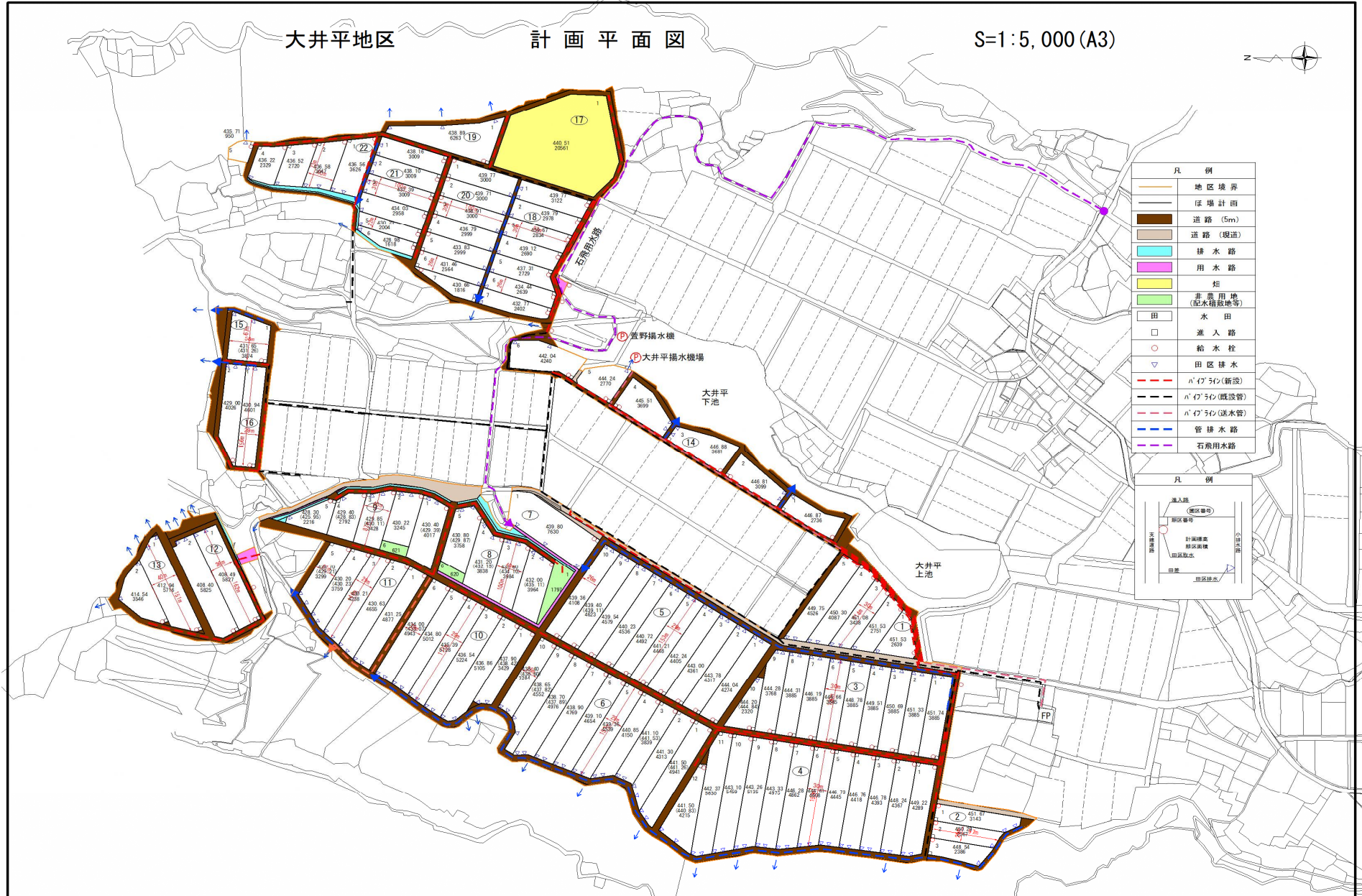
(2) 表土扱い

(第16表-2)

面積 (ha)	表土扱い要否の理由	扱い深 (cm)	土量 (m ³)	備考
44.4	要：土壌調査の結果及び基盤切盛を行うため	15	66,600	

(3) 末端道水路配置図

次頁、計画平面図のとおり。



凡 例	
	地区境界
	区画計画
	道路 (5m)
	道路 (坂道)
	排水路
	用水路
	畑
	非農用地 (配水権取地等)
	田
	水田
	進入路
	給水栓
	田区排水
	φ175φ(新設)
	φ175φ(既設管)
	φ175φ(送水管)
	管排水路
	石飛田用水路

凡 例	
	進入路 (配水番号)
	田区排水
	計測標高
	排水標高
	田区取水
	田区排水
	田区排水
	田区排水

2. 暗渠排水
該当なし

3. 客土
該当なし

4. 農地保全
該当なし

第10節 老朽ため池改修計画
該当なし

第5章 主要工事計画

第1節 用水施設

1. 貯水池

該当なし

2. 頭首工

該当なし

3. 揚水機

該当なし

4. 用水路

(第17表-4)

項目 水路名	かんがい面積 (ha)		通水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	区画整理	計								
用水路	42.3	42.3	0.001~0.269	0.5	6.3	6.8	BFB600mm, BF300mm VU φ 75mm~600mm	—	配水槽工	
計	42.3	42.3	0.001~0.269	0.5	6.3	6.8				

5. その他かんがい施設

該当なし

第2節 排水施設

1. 排水水門

該当なし

2. 排水機

該当なし

3. 排水路

(第18表-3)

項目 水路名	受益面積 (ha)		排水量 (m ³ /s)	延長 (km)			構造	勾配	主要構造物	備考
	事業名			開きよ	トンネル その他	計				
	区画整理	計								
小排水路	44.4	44.4	0.011~1.601	1.0	2.4	3.4	HF300mm×300mm, HF900mm× 900mm, VU φ 200mm~450mm	1/140~1/1000	取付柵工、横 断工、急流工	
計	44.4	44.4	0.011~1.601	1.0	2.4	3.4				

4. その他排水施設

該当なし

第3節 道路及び索道

1. 道路

(1) 道路の総括表

(第19表-1)

項目 区分	路線名	幅(有効) (m) ×延長(km)	構造	付帯構造物			最急勾配 (%)	同左の延長 (m)	最小曲線 半径 (m)	備考
				名称	構造	数量 (箇所)				
区画整理	支線道路	5.0(4.0) ×10.0	砂利・Co	取付道路工 道路側溝	— BF300mm	15箇所 1,518m	10	940	—	
計	—	10.0	—	—	—	—	—	940	—	

(2) 道路主要構造物

該当なし

2. 索道

該当なし

第4節 農用地造成

該当なし

第5節 洪水調節施設

該当なし

第6節 干拓施設

該当なし

第7節 農用地整備施設

1. 区画整理

(1) 区画整理

(第23表-1)

工区名	面積 (ha)	整地工		表土扱い		備考
		標準区画	土量(m ³)	面積(ha)	土量(m ³)	
水田	42.3	田 150×30m	—	42.3	63,450	
畑	2.1	—	—	2.1	3,150	
計	44.4	—	—	44.4	66,600	

(2) 末端用水路等

(第23表-2)

区分	項目	数量	規模	構造	備考
用水路		6.3	VU φ 75mm～600mm	塩ビ管	
		0.5	BF300mm, BFB600mm	ベンチフリューム	
計		6.8	—	—	

(3) 末端排水路等

(第23表-3)

区分	項目	数量	規模	構造	備考
小排水路		1.0	HF300mm×300mm, HF900mm×900mm	排水フリューム	
		2.4	VU φ 200mm~450mm	塩ビ管	
計		3.4	—	—	

2. 暗渠排水
該当なし

3. 客土
該当なし

4. 除礫
該当なし

5. 農地保全
該当なし

第8節 老朽ため池改修施設
該当なし

第6章 附帯工事計画

該当なし

第7章 工事の着手及び完了の予定時期

工期

着手予定 令和8年度

完了予定 令和16年度

第8章 環境との調和への配慮

保全対象生物として、本地区で典型的に見られる生物で、ほ場整備工事により減少が懸念されるトウキョウダルマガエルを選定する。
トウキョウダルマガエルは、平地の水辺に生息する。初夏から夏に水田や浅いため池で産卵し、盛夏頃に上陸して水辺の草地などに分散し、水辺の土の中で越冬する。
このことから、水田や草地等の間を移動する際にコンクリート水路に個体が転落しないよう、蓋掛けまたは暗渠化を行う。また、転落時の対策として集水柵に脱出工を設置する。

第9章 換地計画の概要

第1節 換地計画を作成する上での基本的な考え方

本事業の趣旨を踏まえ、関係農家の農用地の集団化を進め、農業経営の合理化及び近代化を図り、地域農業の発展に資するよう換地計画を樹立するとともに、担い手農家への農地集積の必要性の啓発に努め、作業委託等の農地流動化や利用権設定等による農地の集積を促進する。

第2節 換地区の設定

1. 換地区の名称、所在、面積

(第25表-1)

換地区名	換地区の所在	面積(ha)
全換地区	新潟県中魚沼郡津南町大字上郷大井平、谷内	55.3

2. 換地区を設定する理由

該当なし

第3節 換地計画樹立の基本方針

1. 従前の土地の地積の基準

(第25表-2)

換地区名	地積の基準
全換地区	換地交付の基準とする従前の土地の地積は、土地改良事業計画確定の日の登記地積とする。ただし、上記の日から3か月以内に測量士、測量士補又は土地家屋調査士の測量した実測図及び隣接土地所有者の同意書を添付して申し出があった場合は、その申し出のあった地積とする。

2. 用途別予定地積

(単位：ha) (第25表-3)

換地区名	用途 (取得予定者) 前後	非農用地区域外に換地する土地											非農用地区域に換地する土地										機能交換に係る土地			一般 国 公有地	総合計				
		田	畑	山林・原野	その他	通常事業施行地域に含める土地(令第1条の9()書き)			計	本事業によって生ずる土地改良施設用地			創設農用地	合計	特定用途用地			異種目換地	創設非農用地					合計	国			県	市町村他	合計	
						土地改良施設	その他	小計		改良区	その他	計			宅地	その他	計		農業経営合理化施設用地	生活上・経営上必要な施設用地	公用・公共用施設用地	宅地等	計								合計
全換地区	従前の土地	43.5	2.2	0.3	0.5	5.9	0.1	6.0	52.5	-	-	-	-	52.5	(470㎡)	0.0	-	-	-	-	-	-	0.0	-	-	2.8	2.8	-	55.3		
	換地	42.3	2.1	-	-	6.8	-	6.8	51.2	0.2	-	0.2	-	51.4	0.1	-	0.1	-	-	-	-	-	-	0.1	-	-	3.8	3.8	-	55.3	
合計	従前の土地	43.5	2.2	0.3	0.5	5.9	0.1	6.0	52.5	-	-	-	-	52.5	(470㎡)	0.0	-	-	-	-	-	-	0.0	-	-	2.8	2.8	-	55.3		
	換地	42.3	2.1	-	-	6.8	-	6.8	51.2	0.2	-	0.2	-	51.4	0.1	-	0.1	-	-	-	-	-	-	0.1	-	-	3.8	3.8	-	55.3	

3. 農用地集団化の方針

(第25表-4)

換地区名	区分	地帯別、グループ別 団地の設定	個人別換地の方法		
			位置の選択方法	1戸当たり目標団地数	区画畦畔の取扱い
全換地区		1. 営農グループ別集団化 担い手農家が耕作する農用地は、利用権設定をして集団的営農に適した位置にできるだけ集団化する。	各人の従前の土地条件（区画形状・日照等）を基準としながら、意向調査等の結果を踏まえて、営農グループ別集団化との調整を図りながら、地域の営農形態が向上するよう地区全体の合理的な土地利用計画を策定し、これに基づき換地の位置を選定して集団化する。	1戸当たりの団地数は、概ね1～2団地を目標とする。	固定畦畔とする。

4. 非農用地の換地方法

(第25表-5)

換地区名	区分	種類	非農用地区域の位置の概略	面積 (㎡)	換地の手法	換地取得予定者	その他
全換地区		宅地	おおむね従前のおり	470	特定用途用地換地	従前の土地所有者	

第4節 土地の評価及び清算の方法

1. 評価の方法

標準地比準方式

2. 清算の方法

増価額比例地積清算方式

第5節 換地計画樹立の年度計画

(第25表-6)

換地区名	区分	一時利用地の指定 予定年度	換地計画の決定 予定年度	換地処分 予定年度	備考
全換地区		令和9年度～令和13年度	令和15年度	令和15年度	

第6節 換地処分の時期に関する特則

換地区内の区画形状の変更に係る工事が全て完了し、確定測量が実施されたときは、土地改良法第89条の2第10項で準用する同法第54条第2項本文の規定にかかわらず、換地処分ができるものとする。

第10章 事業費の総額及び内訳

(第26表)

区分	事業名	区画整理 (千円)	備考
	主要工事	1,819,649	令和7年度単価
	附帯工事	-	内工事雑費 30,327 千円 内地方事務費 56,322 千円
	計	1,819,649	

単位：千円

事業名等	区分	工事費				工事雑費				地方事務費			
		国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元	国	県	市町村	地元
区画整理	負担率	62.5 %	27.5 %	10 %	- %	- %	100 %	- %	- %	- %	100 %	- %	- %
	負担金額	1,083,125	476,575	173,300	-	-	30,327	-	-	-	56,322	-	-
合計	負担率	62.5 %	27.5 %	10 %	- %	- %	100 %	- %	- %	- %	100 %	- %	- %
	負担金額	1,083,125	476,575	173,300	-	-	30,327	-	-	-	56,322	-	-

第11章 効用

(第27表)

事業名	項目 区分	年総効果（便益）額 （千円）	年総増加農業所得額 （千円）	備考
区 画 整 理	作物生産効果	39,053	1,866	総費用（現在価値化）＝ 1,693,078 千円
	営農経費節減効果	57,247	60,245	
	維持管理費節減効果	△ 2,053	△ 109	総費用総便益比＝ $\frac{1,949,983}{1,693,078} = 1.15$
	耕作放棄防止効果	250	－	増加所得償還率＝ $\frac{-}{62,002} = \times 100 = -$
	農業労働環境改善効果	3,774	－	
	景観・環境保全効果	116	－	
	国産農産物安定供給効果	6,359	－	
	計	104,746	62,002	令和7年度単価

第12章 関連する事業

該当なし

第13章 現況・計画図面

計画一般図のとおり。

令和8年度新規採択希望(着工地区)区画整理
 (経営体育成基盤整備「農地中間管理機構関連型」)事業

新潟県 大井平地区 計画一般図

縮尺 1 : 25,000

